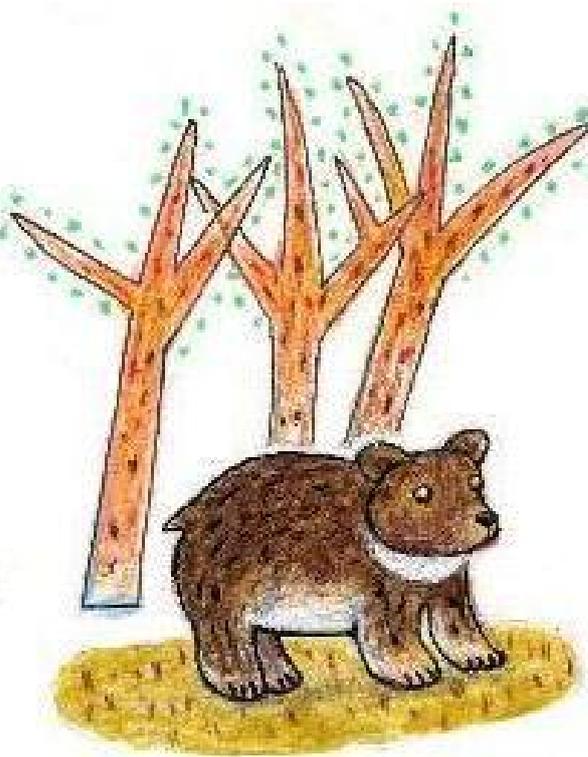
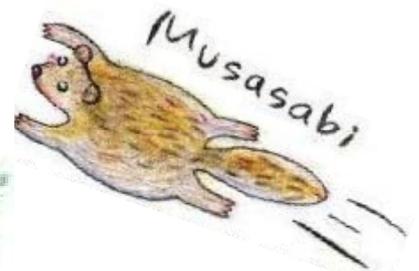


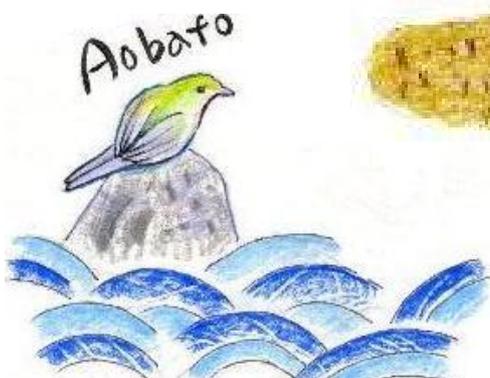
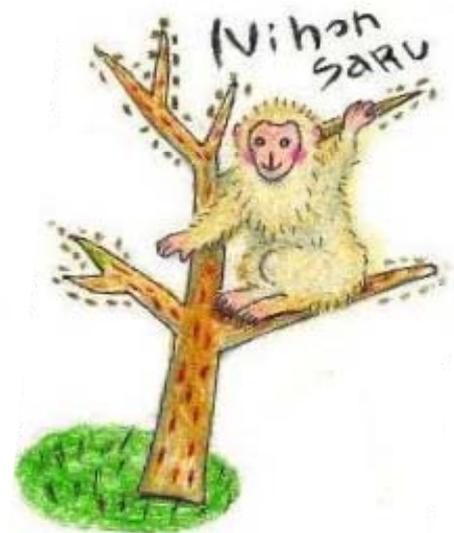
RUNNER



Vol.10



Tukino waguma



目次

今日の RUNNER (ツキノワグマ)	2, 3
活動の現場から(森田先生講演会・大掃除・放野後の鳥たち)	4~6
鳥見旅 (土屋)	7
ランナー通りの住民たち (カラス)	8~10
ボランティア雑感(ムササビ)	11
アオバト	12
下北半島のニホンザル	13
インフォメーション	14

ウェブ購読のお願い

温室効果ガス・コスト削減のために、ウェブ版での RUNNER 購読をお願いしております。ご協力下さる方は、題名「RUNNER メール配信希望」というメールで、メールアドレスとお名前を wildrelief@kanagawa-choju.sakura.ne.jp までお送り下さい。

アンケートご協力のお願い

アンケートをウェブに移行しました！ご協力よろしくお願い致します。

<http://eng-maker.com/4YQ8w7D>



今日のRUNNER



第十走者：ツキノワグマ

ここでは保全センターに運び込まれた傷病鳥獣について保護記録やエピソードを交えてご紹介します。

異常？2010年のクマ事情

今回は番外編！保全センターで保護された動物ではありませんが、神奈川県のツキノワグマを紹介します。

ツキノワグマは、神奈川県では丹沢山地に約30頭が生息していると推定され、県のレッドデータブック（2006年）で絶滅危惧Ⅰ種に指定されています。しかし、2010年はクマの目撃情報が相次ぎ55件（11月末）に上りました。そこで県は、地域住民の安全確保のために、ワナを仕掛け、クマの捕獲に乗り出しました。その結果、神奈川県で捕獲されたツキノワグマは計6頭で、例年が0～1頭に対し、とても多いものでした。



2010年11月4日 山奥で放獣

クマの叱り方

神奈川県で捕獲された6頭のクマの内、5頭は山奥に放獣されました。では、捕獲から放獣までにどのようなことを行っているのでしょうか。

捕獲されたクマは、麻酔をかけられ、県職員と専門業者が全長、体重の測定など様々な検査を行います。また、個体識別のためにマイクロチップを埋め込み、耳標をつけます。

放獣の際は、痛い唐辛子スプレーをかけます。

学習放獣といい、クマが人間を怖がるようにするため、他に爆竹や空砲を用いることもあります。



2010年10月12日 胸囲測定中

捕獲クマデータ

2010年10月11日厚木市上古沢にて、雄のツキノワグマが捕獲されました。同じ柿の木に執着してクマがやってくるとの情報をもとに、県がワナを仕掛けた翌日のことでした。体重62kg、全長152cmのこのクマは歯がボロボロで、おそらく主に柿などの比較的軟らかいものしか食べられなかったことが推測されます。また11月7日には、秦野市で牛舎の飼料を食べていたクマが捕獲され、ここからも食料を求めて人里に降りてきている、クマの事情がうかがわれます。

捕獲日/放獣日	捕獲場所	性別	体重	全長
05月26/27日	山北町中川	♂	92kg	145cm
10月11/12日	厚木市上古沢	♂	62kg	152cm
10月29日	清川村煤ヶ谷	♂	約90kg	159cm
11月04/04日	伊勢原市子易	♂	約110kg	155cm
11月07/07日	秦野市西田原	♂	68kg	149cm
11月08/08日	伊勢原市上粕屋	♀	33kg	115cm

○図鑑○ NO.10

・ツキノワグマ *Ursus thibetanus*

月輪熊 Asiatic black bear

本州（北限は下北半島）、四国に分布。
同一種はアジアに広く分布する。

植物食傾向の強い雑食で、草木の新芽や花、タケノコ、イチゴやサクラの実、オニグルミやドングリなどの果実類などを食べる。また昆虫類も食べ、様々なものを食料として利用する。

昼夜を問わず活動と休息を繰り返し、行動する時間帯は個体によって異なる。

交尾期は5～7月で、受精後の胚は着床遅延がみられ、冬眠中の2月に出産する。一般には隔年で雌雄2頭出産するとされるが、秋の栄養蓄積状況によって、産子数は0～3子まで変動する。

※参考文献

- ・日高敏隆(1996)：日本動物大百科 第一巻哺乳類I, p144, 平凡社, 東京.



2010年10月12日 歯がぼろぼろ

全国のクマ事情

環境省によると、全国でも2010年度はクマの捕獲が相次ぎ、約4000頭に上りました（1月末暫定値）。クマの山里での出没は全国的なようです。また、全国で捕獲されたクマの約88%は捕殺されているそうです。神奈川県ではほとんどを放獣しますが、他の県では対応が異なるようです。また、神奈川県でツキノワグマは絶滅危惧種ですが、他の県ではそうではないということも関係していると考えられます。

食料のない山、食料のある人里

ツキノワグマが人里にやってくるのは、食料を手に入れるためのようです。つまり山に食料が少ないのです。

気象庁によると、2010年夏の日本の平均気温は、統計を開始した1898年以降で最も高くなりました。そのため、野菜は不作で値段が高騰しました。不作だったのは、野菜だけではなく、山の果実、木の実など、普段なら豊富にあるツキノワグマの食料も不作であったと考えられます。また、4、5月に例年より気温が低かったことも関係があるのかもしれませんが、つまり山に食料がなく、空腹のために人里に降りてきたと考えられます。

捕獲して山奥に放す。これだけでは根本的解決にはつながりません。ツキノワグマと人間、どちらも笑顔で共存できる環境を作るためにどうすればいいのか。私たちはツキノワグマのため、自分たちの安全のため、考えていかなければなりませんね。

活動の現場から

このコーナーでは普及啓発活動やイベントなどに参加したボランティアさんがその体験をもとにレポートしてくれています。

森田正治先生講演会

2010年12月19日「人、動物、そして自然～北の動物医の叫び～」と題して、NPO法人道東動物・自然研究所理事長の森田正治先生をお呼びして、熱い講演をしていただきました。

森田先生は獣医師としてご自身の動物病院で犬猫の診察をする一方、その近くに救護センター「道東野生動物保護センター」を設立され、長い間北海道の野生動物の救護に携わっていらっしゃいます。また、野生動物の治療だけでなく、保護中の動物たちの毎日の世話や、実習生の受け入れ、他の施設での展示や講演などを行い、それらを通して自然の大切さを伝えています。

タヌキよりもキツネの方が多く見られたりエキノコックスという寄生虫症が蔓延したりと、神奈川とは異なる北海道という地域で行う救護について様々な相違点が見られ、とても考えさせられることがありました。

当日は寒さが厳しいにも関わらず、50人以上の出席者が集いました。参加者の方にとって、森田先生のお話やDVD・スライドで道東の自然など、盛りだくさんの内容にあっという間の時間だったのではないのでしょうか。

参加者のアンケートの一部をご紹介します。

・日頃から自然に関する関心があり、年々自然環境の悪化とともに野生の生物も減少傾向をたどっていることを危惧していた。そんななかで森田先生の尊い活躍に大変ありがたいと思う。今回の様なセミナーが多く開催されることを望みます。

・ここでは（神奈川）多く来る疥癬タヌキが、北海道ではあまり見られないなど面白いなとおもいました。「個体だけでなく、大きな森を見て」というお話、とても共感し、もっとこの様なことを考えてくれる人が増えると良いなと思いました。

・自然保護を実践している先生の話は、感動的でした。北海道で生かしている自然保護に対する考え方を学びました。

森田正治先生講演会



大掃除

森田先生の講演会の前、12月19日の午前中は恒例の大掃除です。動物たちに気持ちの良い新年を迎えてもらうために、総勢約30人のボランティアが集合！それぞれ思い思いの場所を心をこめて掃除をしました。ホウキを持っているだけが仕事じゃありません。包丁と鍋と格闘してくれた3人のプロの主婦。掃除に疲れ、寒さに凍えた後は、おいしい豚汁で楽しい会談の場となりました。この掃除の風景は、12月20日神奈川新聞に「野鳥も快適年越し」と題してカラーで掲載されました。掃除に親子で参加された、Sさんより感想が届いています。

「大掃除」

今年初めて、大掃除に参加致しました。良い天气に恵まれ、まさに大掃除日和。落ち葉清掃により一層気合いを入れ、慣れぬ脚立に跨り、屋根に積もった落ち葉を払い落としました。払い落した葉をかき集め、焼き芋を作るのに十分な位、沢山集まりました。(山火事の元ですね。)

いつもの雰囲気と違うと感じ取った鳥さん達。餌を与えても、なかなか食べようとしません(カワウを除く)。傷病舎内のA室、B室、別館もピカピカに！

大掃除を終えて感じました。いつまでもこの『輪』&『和』が続きますよう、心より願っております。加藤先生、鶴飼先生、職員の皆様、役員の方々、この日のために準備等、大変お疲れさまでした。そして豚汁を作って下さった、先輩ボランティアの方々、とても美味しくいただきました。ご馳走様でした。

意外といっぱい
やることある
のね～汗



長靴洗いも
大事な仕事！



大掃除の 様子



主婦の力を
見せてあげる
わー☆



普段なかなか会えない
ボランティアさんとも
豚汁囲んで会話が弾む♪



元気に生きてます！！

今まで救護に関わってきたみなさんの中には放野の瞬間に立ち会った経験がある人がいるかもしれません。いつも「元気で生きていけよ～」と思っているのに、振り返りもせずに飛び去ったその子に再び会うことができるなんて滅多にないですよ（まあたまにじっとこちらを見つめながら「え？何？もう行っていいの？」みたいな顔をする子もいますが）。

さてそんな切ない？救護の現場に明るい話題です！なんと、今までに放鳥された子のうち、サンカノゴイをとカワウ見たと報告を受けました！！このページでは、2羽の元気な卒業生をご紹介します。

☆☆☆♪。~~~~~☆☆☆♪。

サンカノゴイ(受付 No. 090578)



この子は2009年11月10日に厚木市内で保護され、同年12月28日に放野された子です（詳しくはRUNNER vol.7の4,5ページをご覧ください）。

銀色の足輪（メタルリング）を装着した後に広い葦原に放たれたサンカノゴイは、元気よく30m近くも飛んでいき、林の中へと消えていきました。放野時は元気に羽ばたいて消えていったサンカノゴイを見てほっとすると同時に今後が気になりましたが、夏の間はその地域で全く確認できませんでした。しかし、12月11日にバードウォッチングをしていた方から「右足にメタルリングをしたサンカノゴイが他のサンカノゴイと一緒にいる」と情報をいただきました。きっと夏は他の地域で生活して、また冬に戻ってきてくれたんですね！

カワウ(受付 No. 090229)

この子は2009年5月30日に厚木市内で保護され、同年6月17日に放野された子です。

この子は特別に足輪をつけた訳ではなく、もともと千葉で巢内ビナだった2009年5月18日に調査のために足輪をつけられていました。巣立ち後、この2週間間に千葉から約60kmも離れた神奈川へ飛んでくるとは驚きですね！

そんなカワウさんは衰弱？しているところを保護されましたが、少しずつ回復していきました。

放野後に確認された場所は神奈川県内ではありませんがなんとまた約13km離れた相模原市内の貯水池！その後2010年11月まで計10回確認されています。相模川をずっと北上していったのだと考えられますが、カワウは一体一生のうちにどれだけ移動するのか気になりますね～。

☆☆☆♪。~~~~~☆☆☆♪。

希少種であるサンカノゴイでもそうでないカワウでも、まずは無事に放野できたことが嬉しいです。そして、その後元気に自然界で暮らしていることを知ることができたということは本当に喜ばしく、救護をしてきて良かったと思えます。これからもそんな風に動物たちが元気に暮らしていけるように、みなさん！元気に楽しく活動を続けていきましょう！！

足輪情報

野外でこの子たちを見たら、是非ご一報ください☆

サンカノゴイ…右足のみ：メタルリング

カワウ…左足：カラーリング黄色 9T6、右足：メタルリング 13C5234

鳥見旅

2010年12月25日(土)、平塚の土屋で探鳥会が開催されましたので、その様子をお知らせします。

このコーナーでは、探鳥会の様子をお知らせしてきましたが、今回で最後となりました。探鳥会は今後も継続していきますので、奮ってご参加ください。今までご愛読ありがとうございました。

【谷戸とは？】

今回の探鳥地は神奈川県平塚西部の土屋という丘陵地です。土屋には谷戸と呼ばれる環境が広がっています。谷戸とは、丘陵地が浸食されて形成された谷状の地形のことです。昔は、この地形を使用し田畑が営まれていたため、里山に近い環境が残っています。雑木林もあり、多種多様な野鳥も生息しています。

【観察された種】

肌寒い中、8名の参加者が集まりました。探鳥会当日は、いい晴天の中で探鳥会を実施することができました。

観察された種は、オオタカ・ヒヨドリ・ガビチョウ・メジロ・ノスリ・アオジ・カシラダカ・シジュウカラ・カワラヒワ・スズメ・キジバト・ハクセキレイ・キセキレイ・セグロセキレイ・シメ・タヒバリ・モズ・コゲラ・ハシブトガラス・ルリビタキ・ジョウビタキ・ホオジロ・ドバト・ツグミで、合計25種の野鳥を観察することができました。珍しい種は見られませんが、多くの身近な種をじっくり観察することができました。



観察会の様子

【参加者の感想】

観察会参加者からの感想を当日の様子も兼ねてご紹介します。

「下って路を変えると 空でオオタカ？がカラスと争っていましたが 急にストンと落下して逃れました。あまりの急降下に カラスも落ちた！と思ったように見えました。掘り起こした畑に タヒバリがいました。土と同じような色をしていて なかなか 分かりません。ちょこちょこ動きます。坂道を下ると コゲラの声がありました。3羽います。枝を回って 逆さまになっても落ちません。なんて軽いんでしょう。双眼鏡を手にして6ヶ月余りですが、15種類くらいはちゃんと見ることができました。初心者では 鳥がいることも気がつかなくなったり、もちろん 種など分かりません。その場で色々教えていただくことでなんとか分かっていきます。というわけで、これからもよろしくお願ひします。」(S・Sさん)

「コースは土屋霊園から里山を歩くコースだったので、畑や神社から雑木林まで比較的多くの環境がありました。しかし、初心者ということもありなかなか鳥の姿を見ることができませんでした。今回は全部で25種を観察できましたが見られた鳥の数自体は他の参加された方の話によると数は少なかったそうです。土屋は自然がまだ残っている地域なので今回見られなかった鳥もまだまだたくさんいます、これからも時間を見つけたらもっと多くの鳥を観察するために出かけてみたいと思いました。」(S・Kさん)

今回でこのコーナーは最後になりますが、探鳥会は今後も続けていきます。交流の場としてのイベントなので、野鳥に詳しくない方も気軽にご参加下さいね。



嘴太鳥、Jungle Crow, *Corvus macrorhynchos*
 嘴細鳥、Carrion Crow, *Corvus corone*
 スズメ目カラス科カラス属

カラスってどんなヤツ？

日本で見るカラスで一番有名なのはなんと言ってもハシブトガラスとハシボソガラス。その他に、嘴の根元が白いミヤマガラスやとても大きなワタリガラスなんかがあります。同じカラス科の中でも他の属ではコクマルガラスやホシガラス、オナガ、カケスなどがあります。ちなみにこんなに大きなカラスもスズメ目なんです！

今回は一番身近でよく目にするハシブトガラス（以下ブト）とハシボソガラス（以下ボソ）について取り上げたいと思います。

ただ単なる黒に見えるカラスの羽も、実は光の加減で赤紫っぽく見えたり、緑っぽく見えたりします。

ブトとボソの違い

	ブト	ボソ
全長	56-57cm	50cm
翼開長	100-105cm	99cm
体重	550-750g	400-600g
嘴	太く曲がっている	細い
額	出っ張っている	出っ張りは少ない
鳴き声	カーカー	ガーガー
食性	雑食（肉食性）	雑食（植物性）

これはRUNNER vol. 2のカワウや vol. 3のササゴイと同じですね。

ブトは英名に Jungle がつくように、森林地帯やビルが並ぶ都市部など三次元的な地形を好みます。それに対してボソは農村地や海岸など二次元的な拓けた地形が好きです。

2種類とも雑食性で、虫や死骸 生きた小動物、実や葉っぱととても色々なものを食べます。だからこそゴミを荒らしたり、お弁当を取られたなんて問題も起こります。でも、ボソなんて英名が Carrion（死肉を食べるの意）になってしまうほど、カラスは自然界ではお掃除屋さんの役割を十分に果たしています。



ハシブトガラス



ハシボソガラス

カラスは野生下では約 10 年、飼育下では約 20 年以上も生きると言われています。

カラスたちは 4 月頃に 2~5 個の卵を産み、ヒナは約 20 日後に誕生し、その 1 か月後に巣立ちます。巣立ってから長い間家族や群れで暮らし、十分に社会の厳しさを学びます。真黒な大人に対してヒナはとても澄んだ青い目をしていて、真っ赤な口の中

を見せながら「アワワー」と鳴いています。いわゆる「繁殖期」は4～7月です。

カラスはねぐらを作りますが、その規模は季節などによって変化し、冬には1万羽を超えるねぐらもできるそうです。

また、カラスはとても早起きの鳥だと言われ、実際に早朝（日の出前）の野鳥観察に行ってもやはりカラスを最初に発見します。

カラスって賢い！

カラスが賢いというのはよく言われていることですね。そんなカラスのワンシーンをご紹介します。

①貝を割る

ある日、神奈川県藤沢市の江ノ島へ鳥を見に行った時のこと。本土と江ノ島を結ぶ橋（江ノ島大橋）の上で、なにやら変な行動をするボソが1羽。何かを落としてはまた拾ってを繰り返します。何をしているのかと思えば、貝を割ろうとしている様子。このカラスはただ地面に貝を落としているだけでしたが、別の地域ではクルミを停車中の車の前に置いて、それを割らせて食べるヤツもいるというほど。

江の島のボソくんの貝は車が来る前に割れてしまいました。クルミ割りの技術を身につけるのも時間の問題かもしれませんね。

②枝の引っ張り合い



少し前までは人が大好きなブト「ピータン」と、いつもドアの近くでダンスをしているボソ「門番」もいましたが、現在保全センターにいるカラスは前から飼育されている2羽のボソだけです。その2羽のボソさんたちはあまり人に近寄ろうとはしません

が、ケージのネット越しだと一緒に遊べます。

ネットの隙間から小枝を1本ボソに向かって差し出すと、嘴でがっちりつかんで引っ張り合いをします。引っ張り合いにボソが勝つと、その場にポトッと枝を落として「新しい枝でもう一回やろう～」とせがみます。なのでもう一度引っ張り合いをするとまた1本目の枝と同じ場所に2本目も落とします。

今度は私が網の間から指でボソの落とした枝を取って引っ張り合いをしてボソが勝つと、なんとボソはネットから離れた場所に枝を落とします。ネット越しにはその枝には手が届きません。「どーだ、枝はおらのもんだあ～」と言わんばかりです。



③好きなものは後で食べる派？

保全センターでのカラスの餌はドッグフードやマインナーフード（九官鳥の餌）、パン、肉類、果物・野菜類などです。その中でも好きなもののトップ3は①肉類②パン③ドッグフードです。その肉やパンなんかをケージの隅にたまった落ち葉の下に埋めたり、ケージの骨組みである鉄パイプのプラスチック部分を抜いてパイプの中に詰め込んだりします。そして後で隠した餌をこっそり食べるのです。でも、たまに食べ忘れたり残しっぱなしにすると、ボランティアさんたちにきれ～いに掃除されちゃって、ちょっとしょげているんです。

④その他

その他にも、カラスは遊び好きで、電線に逆さにくら下がったりぐるぐる回転したり、雪や滑り台を背中やお腹で滑ったり、犬や他の動物にまでちょっかいを出したり、まるで人間のように遊びをします。また、ブトとボソで違った遊びもあるそうです。

カラスの悲しい現実

去年の初夏、私はブトの巣立ちヒナ2羽と出会いました。毎年飛ぶ練習をしているカラスを見ていますが、この子たちは様子がおかしかったのです。

近くに親がいそうな雰囲気もなかったので近寄ってみると、1羽の左翼が見るからに垂れ下がり目をつぶっていて、到底飛べるようには見えません。その子はとても痩せていて、左翼の風切羽は羽の根っこから抜けていました。

この子が怪我した原因がたまたま巣立ちに失敗したのか、電線等に引っ掛かってしまったのか分からないため、私は置き去りにしてきてしまいました。今でもこの判断が良かったのか、自分の中で葛藤があります…。



カラスと人間…共存できるか

現在保全センターでは在来種であるけれどもカラスの保護は行なっていません。

ですがもし保護したら？人手は？スペースは？大きくて数も多いカラスを保護することによるリスクは大きいのも事実です。

自然界ではお掃除屋さんとしていなくてはならない存在なはずのカラス。昔からローマでもギリシャ

でも、そして我が国日本でも神の使いとされてきたカラス（サッカーのヤタガラスは有名ですね）。なのに黒くて大きいカラスは何故か嫌われ者になってしまうことが多いです。

カラスの見た目を変えることは難しいので、行動の謎をひも解いて共存する方法を探しましょう！



①カラスに襲われた！

カラスが人を襲うのは、「子供を守るため」。というか、カラスにしてみれば襲っているのではなく、頑張っているのですが。人も動物も敵から子供を守りたいと思うのは同じです。その守る方法は様々。タカに立ち向かうヒタキや、擬傷（巣から離れた場所で自分が傷ついたふりをして注意を逸らすこと）をするチドリ、翼の下にヒナを隠すカモなどと同様、人に立ち向かっていくカラスにとっては命がけなことなのです。カラスは自分も襲われないように、人を攻撃するときは後ろからアタックしてきます。巣やヒナを見つけたときはきっと親が近くにいます、むやみに近づかないようにしましょう。

②ゴミあさり

カラスがゴミをあさる光景はよく見ますよね。ネットがちゃんとかけられていなかったり、適当に捨てられていると、ビニール袋はあの嘴と爪で簡単にやぶられてしまいます。ですがゴミあさりは困るので、例えばカプサイシン（唐辛子の辛味成分）入りや色つきのゴミ袋、深夜帯にゴミを回収する収集車、フタつきのゴミ箱、重石つきのネットなど、ゴミ対策は個人でも自治体でも沢山行われています。ネットをきちんとかけたり、ゴミ箱のフタを閉めたり、私たちが簡単にできることも多くあります。



上記の2つのように、カラスの生態をしっかり把握すれば何も怖がることはないし、異常に数が増えることもありません。逆にこれを利用して近隣の方々と対策を行えば、ご近所さんとの仲もより良くなっちゃいますね！

今回のカラス編では、救護の会会員である斎藤仁志さんにご協力を承りました。
ありがとうございました☆

ムササビデータ解析の報告(1)

有志ボランティアスタッフによるムササビのデータ解析に関する報告です。常時メンバー募集中！

ムササビの短期飼育をしたボランティアスタッフが中心となり、保全センターで保護されたムササビについて数人のグループで調べている。

ムササビ基本データ

体重：24-25g（出生時）

♂約 1.2kg、♀約 1.0kg（成獣）

繁殖：年 2 回（春、秋）、1～2 頭/回、妊娠 74 日間

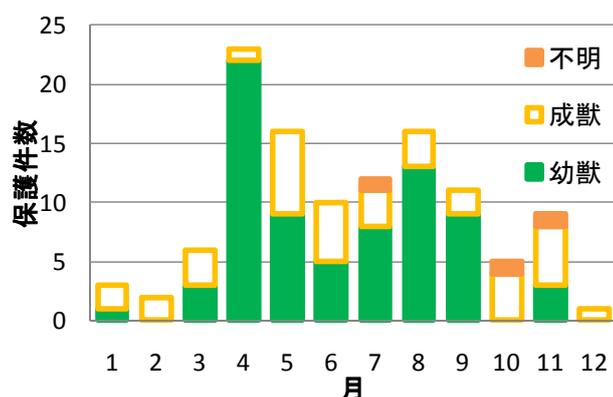
発育カレンダー：26-31 日目 開眼

49-54 日目 巣穴から顔覗く

70 日目 独り立ち

ほか：皮膜により樹木間を滑空する姿はさながら
「飛ぶ座布団」

保全センターでの保護記録表によると 1980 年から 2010 年までの 31 年間では保護頭数 112 頭となり、そのうち成獣は 38 頭、幼獣は 71 頭、不明が 3 頭であり、圧倒的に幼獣が多い。また幼獣の保護は 4 月と 8 月にピークとなり、これは眼が開き巣穴内を活発に動き出す時期と一致している。成獣のピークは 5 月だが、理由は今後検討していく。



図—1980~2010年における月ごとのムササビ保護件数

現時点でデータを見る限り、保護時の体重よりも保護要因（例：巣から落ちた、ネコ/カラスに襲われた、等）が生存率を大きく影響するようである。

幼獣のうち、放野出来たものは 31 年間で 30 頭（最小保護体重 56g）であった。

他の施設ではどうなのだろうか。インターネット検索だと、ムササビを展示している動物園は少なくとも 10 か所¹あるようだ。データとして残してあるところはあるのだろうか。知りたいものである。

ムササビの観察会は東京、神奈川、山梨でいくつか行なわれている。出来たら参加してみたい。

2011 年 2 月 24 日、粘着テープでベタベタのムササビが保護された。ネズミと間違われて捕まえられたようである。保定するにも 3 人がかりとなる。早く元気になり、また夜の森を飛んでほしい。



図—保護当時のムササビ(個体番号)



図—すっかりたくましくなった様子

¹ 上野動物園、多摩動物園、井の頭動物園、京都市動物園、安佐動物公園、とべ動物園、富山市ファミリーパーク、到津の森公園、東山動植物園、平川動物公園

大磯町の鳥 アオノバト

海水を飲む不思議な鳥。

アオバトについてご紹介します。



★アオバトについて★

毎年5月頃になると大磯町の照ヶ崎海岸には、海水を飲みに体色が緑色のアオバトがやってきます。だいたい10月くらいまで観察することができます。丹沢山地の辺りから大磯まで飛んできているようです。彼らがなぜ海水を飲みに来るのかはまだはっきりとはわかっていませんが、どうやら夏季の果実に特化した食性とピジョンミルクによる子育ての方法との関係が深いようです。オスとメスは良く似ていますが、オスは翼の肩の部分がアズキ色をしているのでメスと見分けることができます。

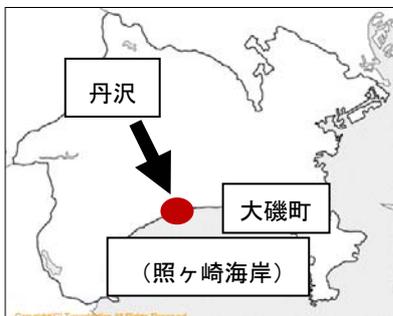


飛翔するアオバト

★大磯町とアオバト★

アオバトが毎年飛来する照ヶ崎海岸は、1996年2月に神奈川県天然記念物に指定されました。アオバトにとってとても大切な場所だからです。私は1度に130羽ほどの群れを見たことがあります、日本最大の飛来地だと考えられています。

昨年は「大磯町の鳥」にも指定されました。



★照ヶ崎で観察できる鳥★

アオバト以外にも、ハヤブサ・オオミズナギドリ・ウミウ・アオサギ・ダイサギ・トビ・カルガモ・キアサシギ・ウミネコ・コアシサシ・ツバメ・イワツバメ・イソヒヨドリ などなど



岩場での海水吸引（左：メス、右：オス）

★観察ポイント★

観察するときは、照ヶ崎海岸の岩礁を見てみてください。岩の窪みにたまった海水をアオバトが飲みに来てくれます。朝日に照らされながら光るアオバトを下から眺めるのも良いかもしれません。夜明けから9時くらいにかけて1番よく見られます。特に7月下旬頃から、その年に生まれたヒナたちも飛来し始めるので見られる数がぐっと上がります。最近では、立派な遊歩道も造られて以前よりも観察がしやすくなりました。アオバトの飛来する場所はピンポイントですぐにわかると思うので、気軽に足を運んでもらえればと思います。でも、台風が近づいている時の海岸は高波など危険ですのでご注意ください！

★こまたん★

「こまたん」は大磯町や平塚市をフィールドにしたアマチュアの野鳥観察グループで、特にアオバトに関する研究内容はアマチュアを超えていると思います（本を出したり、研究発表もしたりしています）。アオバトのコトは誰よりも詳しいです。照ヶ崎に行って、アオバトを観察している集団がいたら「こまたん」の可能性が高いです。気軽に話しかけてみましょう。優しくなんでも教えてください。観察会も定期的に行っているので参加してみてもいいでしょうか？

写真提供：金子さん（こまたん）

北限のサル

～下北半島でのニホンザル調査～

保全センターには年間を通して様々な野生動物たちが保護されてきます。

しかし、彼らの野生の姿を自分の目で実際に見たことがある人は多くないはずです。

今回は、私が参加している下北半島のニホンザルの生態調査についてお伝えします。

◎北限のサル◎

ニホンザルは日本の固有種です。実は、このニホンザルは世界中に生息するサルの中で北限に生息するサルであり、下北半島より北にはサルはいません。英名で、ニホンザルのことを snow monkey と呼ぶことがあるのはこのためです。

ちなみに、北に生息する下北半島のニホンザルは、亜種で屋久島に生息するヤクシマザル（ヤクザル）に比べて大きい体をしています。

◎調査地◎

東京から北へ夜行バスで約 10 時間。青森駅に着いたら、今度はフェリーで陸奥湾を横断し、調査地であるむつ市脇野沢に到着します。



◎調査目的◎

この調査は「下北半島のサル調査会」によって 1988 年から続けられている歴史ある調査です。下北半島に多く存在する群の構成（個体数・雌雄判別・年齢など）や採食物の観察、遊動域（行動域）の観察などを行っています。また、調査結果を公表し保護と共存を目指してアピールすることがこの調査の大きな目的の 1 つとなっています。

◎調査方法◎

地図とコンパスを片手に山（基本的に林道）に入り、歩きながら群を探し出して、追跡し、個体数や構成などを目視して観察します。このような調査方法を踏査と言い、2 人一組で行います。また冬には足跡を見つけて、そこから個体数を推測したり、足跡を追跡して群を探したりします。

雪道にはサル以外にもいろいろな動物たちの足跡

が残されていて、その数の多さに驚かされます（カモシカ・ノウサギ・ニホンリス・ネズミなど）。

◎ワラビ・コゴミ◎

実は脇野沢には身体的な特徴などにより個体識別されているサルたちがいます。メスには植物の名前を、オスには魚に関する名前をつける傾向があるようです。山で会う野生のサルに名前が付いているなんて思ってもいませんでした。



◎感動◎

今までサルを見て、「綺麗だな」と感じたことがあったでしょうか？野生のサルは動物園のサルと比べものにならないくらい美しい姿をしています。まるで違う生き物のようです。真冬の雪山では snow monkey の名に相応しく、体を銀色に輝かせながら、雪の中でも力強く生きる彼らに出会うことができます。そんな姿を見て、やはり野生動物は自然界で生きていくのが 1 番なのだ実感しました。

◎軋轢◎

最近では、畑荒らしなど猿害についての問題がニュースで取り上げられることが多くなりました。下北半島のサルたちも例外ではありません。彼らは天然記念物でありながら、猿害が問題で捕獲・殺処分もされているのです。「北限のサル」は地元の観光資源になる一方でこうした問題を抱えています。

ニホンザルに関わらず、人間と野生動物とが上手く共存していけるように私たちは努力していかなければならないと思います。



写真：2010 年 10 月 28 日 脇野沢にて

インフォメーション

お知らせ

- 第2回 スキルアップ勉強会『応急処置』
▽日時 : 4月17日(日) 13:00~16:00(予定)
▽場所 : 神奈川県自然環境保全センター
▽参加費 : 無料(会員以外は500円)
▽募集人数 : 20名

今後のスキルアップ勉強会

- 第3回 『エサの作り方・種類』
- 第4回 『さし餌』
- 第5回 『強制給餌』

- ボランティア講習会

- ▽日時 : 5月21, 22日(土, 日)
- ▽場所 : 神奈川県自然環境保全センター

各イベントのスタッフも
募集しています!!
ご協力お願い致します

- ▽野生動物救護ボランティアとして活動するために、
必要な知識・技術を講義1日半、実習半日で学びます。

※詳細は当会ホームページをご覧ください

☆☆ 会員へのお誘い ☆☆

当会は、ボランティアスタッフの協力と設営趣旨にご賛同いただきました皆様方の寄付によって運営されております。私たちの活動を支えてくださる賛助会員も同時に募集しています。

- ★一般会員 : どなたでもご参加 いただけます (年会費 2,000円)
- ★学生会員 : 学生の方 (年会費 1,000円)
- ★賛助会員 : 当会の活動にご賛同 いただき寄付をしていただいた方
年会費 : 法人(一口 5,000円) 個人(一口 3,000円) 一口以上

【振込先】

ゆうちょ銀行振り替え口座 : 00270-0-47040
名義 : 特定非営利活動法人 野生動物救護の会

発行月: 2011年4月 発行: 特定非営利活動法人 野生動物救護の会 電話: 0463-75-1830

〒259-1306 神奈川県秦野市戸川1086番地の4 ホームページ: <http://kanagawa-choju.sakura.ne.jp/>

編集者 表紙絵: 荒井海々 今日のRUNNER: 小松美絵 活動の現場から: 高橋恵 鳥見旅: 山下宏幸

ランナー通りの住民たち: 高橋恵 ボランティア雑感: 平美也子、武田智子 アオバト: 加藤わか葉

下北半島のニホンザル: 加藤わか葉 インフォメーション: 渡辺優子、山下宏幸

Special thanks 平沼さん ご協力ありがとうございました☆